

第4回岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会 議事要旨

- 1 開催日時：平成20年8月9日（水） 13：00～16：00
- 2 開催場所：大崎市ふるさとプラザ3階大会議室（宮城県大崎市）
- 3 議事
 - （1）産女川上流域の対策方針
 - （2）荒砥沢ダム上流地すべりの荒廃現況と今後の課題
- 4 主な検討結果・報告及び委員の発言内容
 - （1）産女川上流域の対策方針
 - ・産女川上流域の大規模崩壊は、今回の地震で発生した、荒砥沢ダム上流の地すべりにつぐ規模であり、産女川上流で約870万m³の崩壊土砂が発生している。対策方針としては、流域内の不安定土砂を固定するため、国有林界付近に大型の谷止工を設置するとともに、下流域の対策と連携して流域全体での土砂流出抑制対策を講じるほか、谷止工・床固工・流路工・護岸工の連続配置により流路を固定する必要がある。
 - ・源頭部の大規模崩壊地から湧出する水の処理や、地下水や融雪、伏流など水などを考慮した対策を検討に加える必要がある。
 - ・源頭部の亀裂についてモニタリングするとともに、崩壊した土塊が不安定かつ急勾配であることから、工事の際には、ワイヤーセンサーの設置や、待避所の設置など十分な安全対策を行う必要がある。
 - （2）荒砥沢ダム上流地すべりの荒廃現況と今後の課題
 - ・末端部における調査ボーリングの結果が明らかになったが、地すべり全体の対策工を立案していくためには、さらに調査と解析を進める必要がある。
 - ・今後の調査に当たっては、GPS測点の追加設置や、ブロックごとに300m程度移動したと推測される動体の力学的挙動の3次元解析、傾斜計の設置などについても検討してはどうか。
 - ・地すべり冠頭部の滑落崖の上方斜面に亀裂が発生しており、監視体制を継続する必要がある。亀裂による迂回路への影響は少ないのではないかと。

以上